

キャリアアップガイド〔経済産業分野研究職〕

職 種	経済産業分野研究職（化学・機械・電気・無機材料・繊維等）
職務内容	・ 中小企業の技術支援 ・ 産学行政の共同研究開発支援 ・ 産業技術、科学技術の振興
主な配属先	・ あいち産業科学技術総合センター ・ 経済産業局本庁 ・ （公財）科学技術交流財団への派遣等
め ざ す 職 員 像	経済産業分野研究職として、高い専門知識・技術力と企画・調整能力を持ち、総合的な視点から判断し行動することができる職員。

＜育成の考え方＞

①専門分野の選択

新規採用者から採用８年目の若手研究者について、ＯＪＴに加え、様々な職場研修を行って、自分の特性を見極め、専門分野選択の機会を与える。職務の使命、業務内容等を鑑み、可能な限り、能力を引き出す。

②育成プログラムの実施

ＯＪＴによる人材育成とともに、各技術分野におけるモノづくり技術や計測分析技術等についての座学と実習を組み合わせた育成プログラムを用意し積極的に参加させる。

③専門分野の高度化

研究職等の極めて高度な専門性を有する職員を養成する必要がある場合は、その事情に配慮し、専門技術分野の研究に取り組ませる。

④バランスのとれた技術職員の育成

将来有望な新技術を見据える能力を育成するとともに、予算決算事務をはじめとする広く県政全体を見渡せる資質を身につけ、行政による県民サービスの一環としての技術支援という考え方を理解できるようにする。

＜主な職務内容別の方針＞

〔中小企業の技術支援〕

- 研究活動を通じ極めて高い専門性と高度な技術を修得
- 依頼試験や技術指導などの実務経験を通じ技術支援能力を高める

〔産学行政連携の共同研究支援〕

- 産学行政連携業務を経験し、企画・調整能力、県民への情報発信能力、幅広い見識を獲得
- 研究活動、試験分析業務を通じ極めて高い専門性と高度な技術を修得
- 大学、企業、関係機関との調整能力を修得

〔産業技術・科学技術の振興〕

- 本庁や地方機関を経験し、企画・調整能力、県民への情報発信能力、幅広い見識を修得。
- 産業技術・科学技術振興に関する企画・調整・指導能力を修得
- 他局、関係機関との調整能力や県民への情報発信能力を修得

《キャリアイメージ》

区 分	経済産業分野研究職(化学・機械・電気・無機材料、繊維等)		
	異 動・配 属 の 考 え 方	必要とされる知識・能力	受講すべき研修等
新規採用	基礎的な技術・知識の習得や適切な指導を受けることに適した所属に配属する。 【地方機関】 あいち産業科学技術総合センター等 【本 庁】 産業科学技術課、産業振興課等	【新規採用時】 ・県職員として実施する研究についての理解・認識	【職員研修】 ・新規採用者研修 【経済産業局研修】 ・経済産業局新任職員研修
技師・主任 (採用後8年間)	基礎的な技術・知識を習得するとともに適性を見出すため、原則として2カ所の所属 ^(※) を経験できるよう計画的に異動を行う。 ただし、職場の専門性、技術力を確保する観点から、研究職等の極めて高度な専門性を有する職員を養成する必要がある場合は、その事情に十分配慮しローテーションを実施するものとする。 ※あいち産業科学技術総合センターにおいては、各センター(試験場を含む)を1所属とみなす。	【採用後8年目まで】 ・専門分野の見極め・選択 ・担当業務に必要な技術等に関する専門知識、課題遂行能力	【あいち産業科学技術総合センター研究職員研修】 ・新規採用研究職員研修 ・若手研究職員研修 ・体験研修 ・内部研修
主任級 (9年目以降)	特定分野の研究実績を積み重ね専門性、技術力を高める。また、職務分野の偏りが無いように幅広い職務経験を積み重ね、適性を見出すとともに、実務の中心的役割を担う職員を目指す。 中小企業の技術支援 ↔ 産学行政連携の共同研究支援 ↔ 産業技術・科学技術振興	【採用9年目以降主査級昇任まで】 ・専門分野における研究開発能力 ・実務の中心的役割を担うために必要な知識・能力及び指導能力 ・幅広い職務経験	・高度計測分析機器研修 ・中小企業支援担当者研修 ・職員中長期技術修得研修 ・新技術育成研修
主査級	課題を設定し自ら取り組むことにより、能力・資質に磨きをかけ、後輩の指導・育成とともに、実務の中心的役割を担う職員をめざす。 ○研究活動を通じ極めて高い専門性と高度な技術を修得 ○実務経験を通じ技術支援能力を高める ○産学行政連携業務を経験し、企画・調整能力、県民への情報発信能力、幅広い見識を獲得 ○研究活動、試験分析業務を通じ極めて高い専門性と高度な技術を修得 ○大学、企業、関係機関との調整能力を修得 ○本庁や地方機関を経験し、企画・調整能力、県民への情報発信能力、幅広い見識を修得 ○産業技術・科学技術振興に関する企画・調整・指導能力を修得 ○他局、関係機関との調整能力や県民への情報発信能力を修得	【主査級から補佐級昇任まで】 ○地方機関の場合 ・専門分野にとらわれず幅広い技術分野、業界に対する指導能力 ・若手職員の指導能力 ○本庁の場合 ・県民、大学、企業、関係機関等に対する説明、折衝、調整能力	【職員研修】 ・主査級研修 【あいち産業科学技術総合センター研究職員研修】 ・中堅研究職員育成研修 ・内部研修
課長補佐級	経済産業分野研究職として、高い専門知識・技術力と企画・調整能力を持ち、総合的な視点から判断し行動することができる。	○地方機関の場合 ・技術管理(MOT)、事業企画・管理能力 ・若手職員の育成能力 ○本庁の場合 ・県民、大学、企業、関係機関等に対する説明、折衝、調整能力	【職員研修】 ・課長補佐級研修 【あいち産業科学技術総合センター研究職員研修】 ・中堅研究職員育成研修 ・内部研修
課長補佐 (室長、グループ班長)	技術センター室長、グループ班長として、専門分野のリーダーとしての役割を担って業務推進するとともに、人材育成など組織マネジメントを行う。	・目標管理、例外処理、渉外・調整等の組織を管理経営するための能力	
備考 (その他関連措置)	※可能な限り、本庁と地方機関を経験する。 【本 庁】 ・産業科学技術課、 産業振興課等 ↔ 【地方機関】 ・あいち産業科学技術総合センター ・(公財)科学技術交流財団への派遣等		